

# 稲作情報

総括号 平成26年12月8日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先: 本吉農業改良普及センター

TEL: 0226-29-6044

ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>



## 気象経過

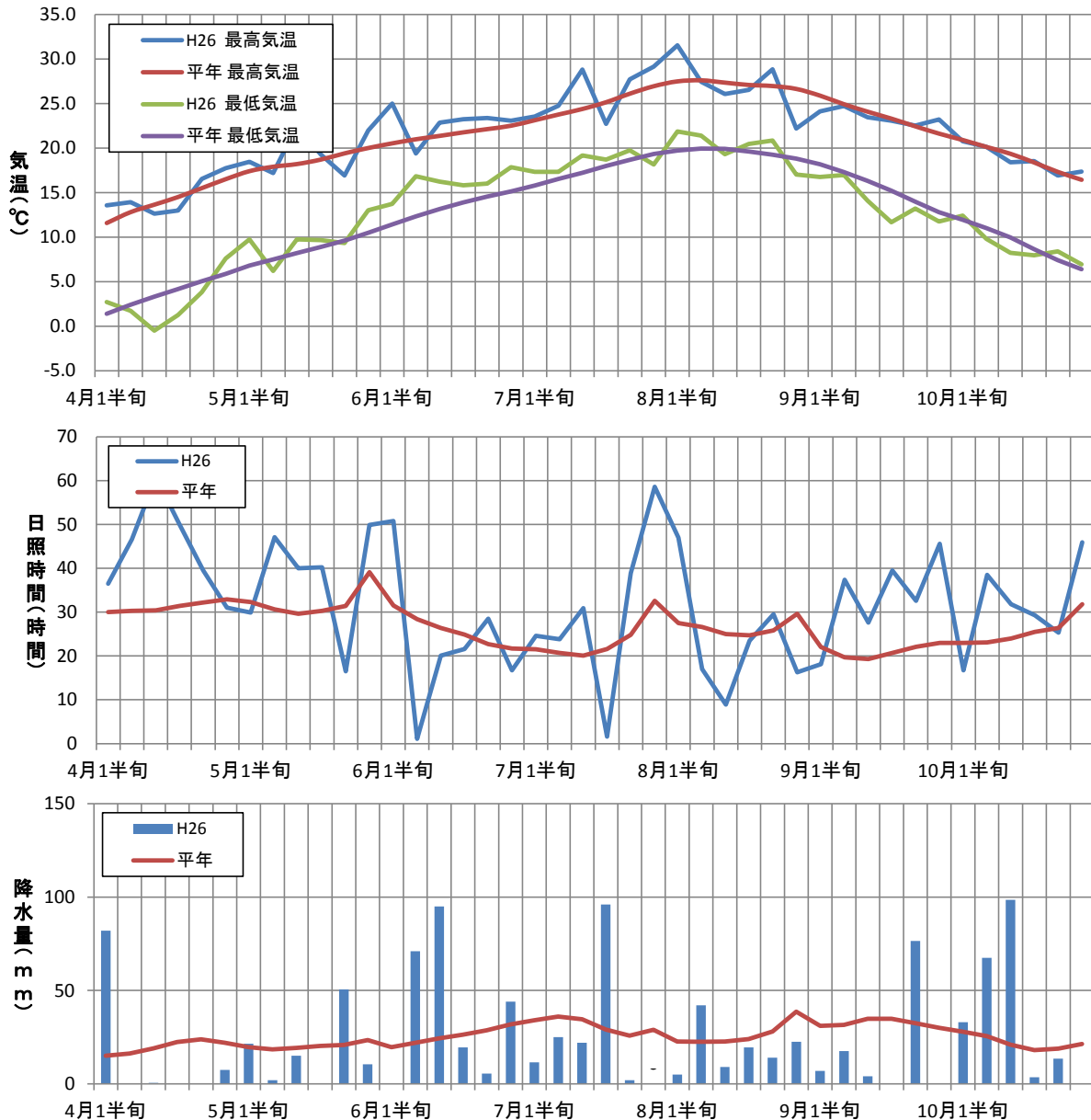


図1 平成26年稲作期間の気象経過図(気仙沼アメダス)

表1 稲作期間の気象経過と特徴(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(時間)		特徴
	H26	平年差	H26	平年差	H26	平年差	H26	平年比	H26	平年比	
4月	8.6	-0.2	14.6	0.5	2.8	-0.9	90.0	76%	264.4	141%	少雨, 多照
5月	14.4	1.0	19.5	0.8	9.7	1.1	99.5	82%	223.6	116%	高温, 多照
6月	18.9	1.8	22.8	1.3	16.1	2.7	235.0	154%	138.8	89%	高温, 多雨
7月	21.9	1.1	26.2	1.2	18.4	0.7	156.5	83%	178.4	126%	高温, 多照
8月	22.9	0.0	26.9	-0.2	20.0	0.5	112.0	71%	142.2	89%	下旬の低温・少照
9月	18.3	-0.9	23.5	-0.2	14.1	-1.6	105.0	54%	200.8	158%	低温, 少雨, 多照
10月	13.4	-0.2	18.6	0.0	8.9	-0.2	216.0	163%	187.5	122%	多雨, 多照

## 生育経過

### ○播種期～田植期 … 播種は平年より1日遅く、田植は平年並

播種盛期は、4月16日で平年より1日遅かった。育苗期間中は、最低気温・最高気温ともに平年より高く、苗は順調に生育し育苗期間は平年より1日短かった。

田植盛期は、5月17日と平年並となった。

表2 播種および田植状況

	播種状況			田植状況		
	播種始期	播種盛期	播種終期	田植始期	田植盛期	田植終期
平成26年	4月12日	4月16日	4月20日	5月11日	5月17日	5月26日
前年	4月6日	4月14日	4月22日	5月10日	5月18日	5月26日
平年	4月6日	4月15日	4月23日	5月10日	5月17日	5月25日
前年差	6日遅い	2日遅い	2日早い	1日遅い	1日早い	同じ
平年差	6日遅い	1日遅い	3日早い	1日遅い	同じ	1日遅い

※始期、盛期、終期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%で作業が終了した日  
平年は前5カ年の平均値

表3 育苗期間の気象条件(気仙沼アメダス)

	気温(°C)			平均日照 時間(h)	育苗 日数	育苗期間
	平均	最高	最低			
平成26年	11.9	17.7	6.5	7.9	31	4/16～5/16
前年	9.2	14.9	4.6	5.6	34	4/14～5/17
平年	11.3	16.7	6.3	6.3	32	4/15～5/16
前年差(比)	2.7	2.8	1.9	142%	3日短い	
平年差(比)	0.6	1.0	0.2	126%	1日短い	

※平年は前5カ年の平均値

### ○田植期～出穂期…天候に恵まれ順調な生育

田植後は、多照傾向であり、水稻の活着・初期生育はおおむね良好であった。

6・7月は、高温傾向で稲の生育は平年より進み、茎数が平年より多いほ場も見られた。

高温により地力窒素の発現も多かったためか、葉色のさめ方は緩慢であった。

両水稻生育ほの幼穂形成始期(幼穂長 1mm)は、平年より3日早い7月9日であった。

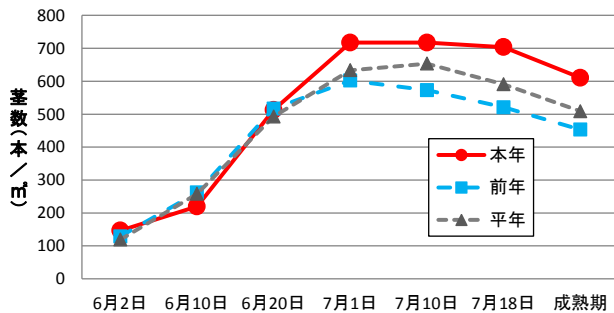


図2 茎数の推移(気仙沼市 ひとめぼれ)

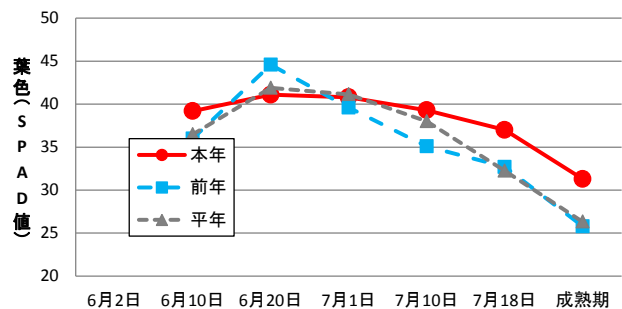


図3 葉色の推移(気仙沼市 ひとめぼれ)

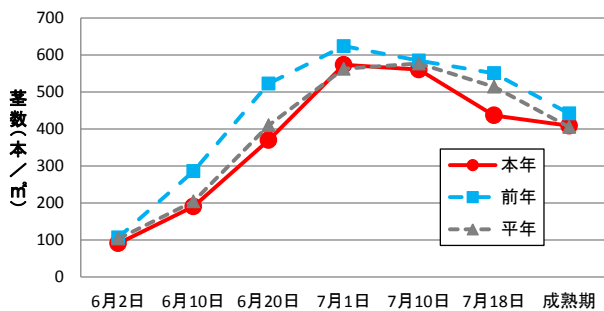


図4 茎数の推移(南三陸町 ササニシキ)

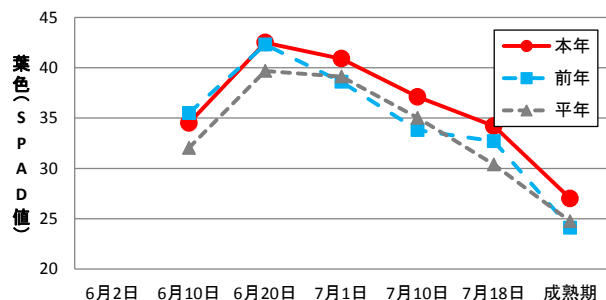


図5 葉色の推移(南三陸町 ササニシキ)

## ○ 出穂状況 …出穂期は平年より5日早い8月5日

7月下旬の低温により、幼穂の伸長は一時停滞したが、8月上旬の高温で伸長は一気に進み、管内の平均出穂期は、平年より5日早い8月5日となった。

表4 管内の出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
平成26年	8月2日	8月5日	8月9日
前年	8月8日	8月11日	8月15日
平年	8月7日	8月10日	8月14日
前年差	6日早い	6日早い	6日早い
平年差	5日早い	5日早い	5日早い

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%が出穂した日  
平年は前5カ年の平均値

## ○登熟期間の気象 …初期は多雨・少照、その後は低温・少雨・多照傾向

登熟期間の初期は、台風11号の影響で少照・多雨で経過したため、カメムシ類や穂いもちの薬剤防除のタイミングが難しいほ場が多かった。その後は、低温・少雨・多照傾向であった。とくに、出穂後31日以降の期間(9月5～24日)、日照時間は平年比150～186%、降水量は平年比19～33%とその傾向が顕著であったため、米の粒張りは例年より良かった。

表5 登熟期間の気象(8/6～9/24, 気仙沼アメダス)

出穂後 日数	平均気温(°C)		日照時間(時間)		降水量(mm)	
	H26	平年差	H26	平年比	H26	平年比
1～10日	22.8	-0.3	2.6	50%	5.7	125%
11～20日	23.4	0.7	5.3	105%	3.4	64%
21～30日	19.6	-2.5	3.4	73%	3.0	46%
31～40日	19.6	-0.8	5.9	150%	2.2	33%
41～50日	17.1	-1.4	7.8	186%	1.3	19%
期間全体	20.5	-0.8	5.0	108%	3.0	51%

## ○刈取状況…刈取盛期は9月30日で平年より5日早い

管内の平均刈取始期・盛期は、平年より5日早い9月20日・9月30日であったが、10月に入ってから断続的に降雨があったことから刈取作業は長引き、終期は10月12日となった。倒伏したほ場は少なかった。

表6 管内の刈取状況

	刈取始期	刈取盛期	刈取終期
平成26年	9月20日	9月30日	10月12日
前年	9月25日	10月3日	10月14日
平年	9月25日	10月5日	10月14日
前年差	5日早い	3日早い	2日早い
平年差	5日早い	5日早い	2日早い

※刈取始期、刈取盛期、刈取終期は、それぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%で刈取が終了した日  
平年は前5カ年の平均値

## 病害虫等の発生状況

斑点米カメムシ類が多発

### ○いもち病

- ・7月は、定期的に降雨があったものの晴れ間も多かったことから、葉いもちの発生は少なかった。
- ・葉いもちの感染好適日は、7月上旬～中旬にみられたが、スポット的で長くは続かなかった。
- ・8月中旬は、曇天でじめっとした天候が続き、ほ場での適期薬剤防除は難しかったが、穂いもちの被害は一部のほ場であったものの例年より少なかった。

## ○斑点米カメムシ類

- ・7月中旬に実施した、周辺牧草地および雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生地点および捕獲頭数ともに前年並に多かった。
- ・8月中旬は、曇天でじめっとした天候が続き、ほ場での適期薬剤防除は難しかったことから、8月下旬の本田内でのすくい取り調査では、発生地点および捕獲頭数ともに前年を上回った。

表7 斑点米カメムシ類すくい取り調査結果

	発生地点率(%)		1地点当たり捕獲頭数(頭)	
	7月中旬	8月下旬	7月中旬	8月下旬
平成26年	90	80	16.7	3.5
平成25年	91	59	17.4	2.5
平成24年	75	80	15.5	11.9
平成23年	70	71	22.1	12.7
平成22年	70	77	21.4	4.3

注1) 調査地点は、管内約20地点

2) 7月中旬は周辺牧草地・雑草地、8月下旬は本田内をすくい取り

3) 捕獲頭数は、斑点米カメムシ類全種込みの平均

## ○雑草

- ・初中期一発剤等の除草剤の効果が切れた6月末頃に発生した、ノビエ・シズイ・ホタルイ等やクログワイ・オモダカが収穫間際まで残草しているほ場が散見された。
- ・本田植後の降水量が少なく、除草剤散布に必要な水深を確保できないほ場がみられた。
- ・作付が可能となった津波被災農地では、耐塩性が高いコウキヤガラが新たに発生しているほ場がみられた。

## 平成26年産米の作柄の状況と要因解析

### ○作柄概況

東北農政局が発表した作況指数は、宮城県全体が105(559kg/10a)、宮城県東部も104(557kg/10a)となった(12月5日公表値)。

8月の日照時間が平年を下回って経過したことから、登熟は「やや不良」と見込まれるものの、田植期から出穂期まで天候に恵まれたことから、穂数・1穂当たり粒数は「やや多い」となり、全粒数は「多い」となった。

表8 平成26年産水稻の10月15日現在の10a当たり予想収量(作況指数)及び作柄概況

	10a当たり 予想収量 (kg/10a)	参考		穂数の 多少	1穂当たり 粒数の 多少	全粒数の 多少	登熟の 良否
		10a当たり 平年収量	作況指数				
宮城	559	530	105	やや多い	やや多い	多い	やや不良
東部	557	534	104	やや少ない	やや多い	平年並	やや良
(参考)岩手東部	506	481	105	多い	やや少ない	やや多い	平年並

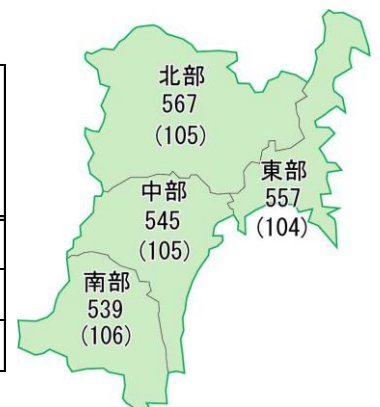


図6 地帯区分毎の作柄

### ○生育調査ほ調査結果

#### ①収量および収量構成要素

穂数は平年比102~106%、1穂粒数は平年比101~103%であったことから、 $m^2$ 当たり粒数も平年比105~108%と平年より多くなった。また、千粒重は概ね平年並み、登熟歩合は平年比96~101%であった。収量(1.9mm上)は、登熟歩合が平年並み~やや劣ったものの粒数が多かったことから平年比105~106%と平年を上回った。

**表9 生育調査ほ収量調査結果**

調査地点名 品種名 (田植日)		穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒)	m <sup>3</sup> 粒数 (百粒)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	収量	
							1.7mm (kg/a)	1.9mm (kg/a)
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月13日)	平成26年	516	58.9	304	22.2	89.0	62.1	60.0
	前年	485	56.0	271	21.3	92.3	54.2	53.3
	平年	506	57.4	288	22.3	88.4	57.7	56.6
	前年差(比)	106	105	112	104	96	115	113
	平年差(比)	102	103	105	100	101	108	106
南三陸町入谷 ササニシキ (5月16日)	平成26年	444	70.9	315	21.9	85.8	61.6	59.1
	前年	460	69.2	319	20.9	88.9	60.0	59.1
	平年	418	70.1	293	21.6	89.5	57.7	56.5
	前年差(比)	97	102	99	105	96	103	100
	平年差(比)	106	101	108	101	96	107	105

注1: 平年値は過去5カ年(平21~25年)の平均値。

注2: 千粒重, 登熟歩合は1.9mm上の値。

**②品質・食味成分等**

生育調査ほの品質調査では, 乳白粒・基部未熟粒・腹白未熟粒などの白未熟粒の発生はやや多かった。また, 斑点米カメムシ類による着色粒はみられなかった。

**表10 生育調査ほ品質調査結果**

(サタケRGQI10AIによる測定)

調査地点名	品種名	整粒 (%)	胴割粒 (%)	白未熟 粒 (%)	青未熟 粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色粒 (%)	死米 (%)	被害粒 (%)
気仙沼市本吉町	ひとめぼれ	89.7	1.7	3.3	0.8	2.9	0.0	1.1	0.6
南三陸町入谷	ササニシキ	84.9	0.6	8.6	0.6	3.2	0.0	1.4	0.6

**○農産物検査結果**

東北農政局が発表した10月末の農産物検査では, 宮城県の1等米比率は92.9%で, 2等以下への格付理由としては, 斑点米カメムシ類による着色粒や充実度となっており, 昨年とほぼ同様の傾向である。

管内の1等米比率は81.2%で(12月4日現在), 地域別の1等米比率は, 歌津地区が96.4%と最も高く, 気仙沼地区を除いた地区で昨年より高くなった。気仙沼地区は, 山間の水田が多いため, 防除しても斑点米カメムシ類による被害が多く, また, 登熟も緩慢で青米が多く発生したと推測される。

2等以下への格付理由としては, 斑点米カメムシ類による部分着色が最も多く約半分を占めている。ついで, 充実度不足が約40%を占めている。適期防除の徹底・色彩選別機処理の実施により量的には少ないものの, 依然として斑点米カメムシ類による被害は大きい。また, 今年度の特徴として粒張りが良かったため, 例年だと網下に落ちる屑米が網上に残り, 青米で充実度不足と判定されたと推測される。

地区別の特徴として, 階上地区は腹白粒による落等が, 歌津地区はもみ混入と胴割粒による落等が, 志津川地区は胴割粒による落等が多い。

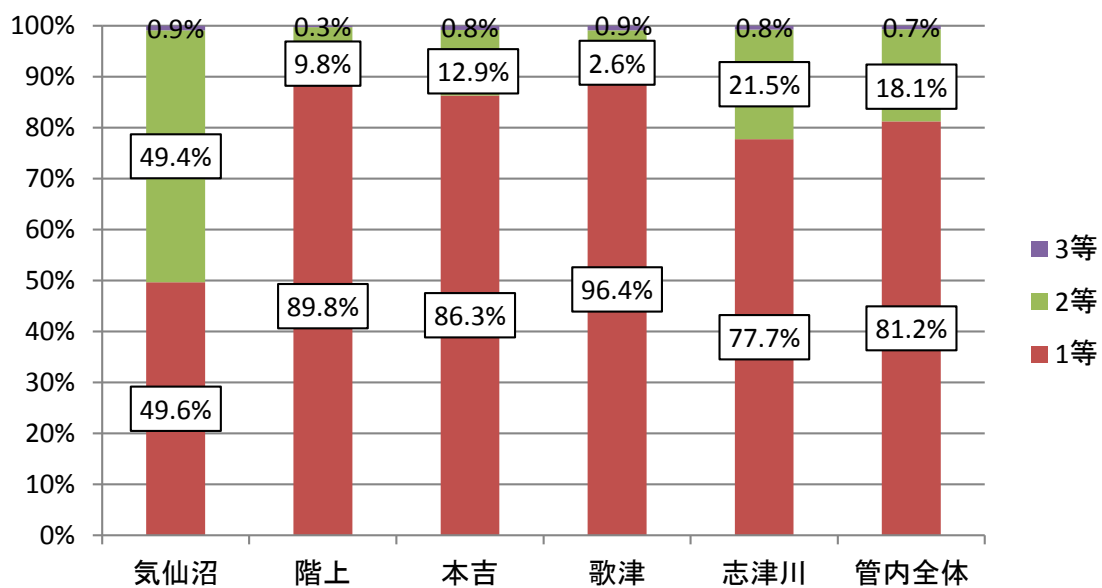


図7 管内の地区別検査結果 (12月4日現在, JA南三陸)

表11 管内の地区別格付け理由 (12月4日現在, JA南三陸)

単位: %

落等理由	気仙沼	階上	本吉	歌津	志津川	管内全体
部分着色(カメムシ)	50.5	76.7	36.0	6.4	60.5	48.2
その他部分着色	1.6		3.7			1.9
腹白粒		9.3				0.9
充実度不足	45.0	8.8	50.6	55.1	17.2	41.5
形質不良			4.0			1.2
もみ混入	0.7		4.9	15.6	1.9	2.3
胴割粒		5.1	0.8	22.9	15.9	2.4
肌ずれ					4.5	0.3
もち玄米混入	2.3					1.2